



2024年度上期を目途に、新しい日本銀行券が発行されます。そのうち一万円券は40年ぶりに肖像が変わり、渋沢栄一（1840-1931年）となります。渋沢栄一にまつわるお金の話を、今回は明治初期から第一国立銀行設立まで貨幣博物館の所蔵資料からご紹介します。

静岡藩 商法会所時代 1869年 29歳

1868年フランスから帰国した栄一は静岡藩への仕官を命じられた。翌年、栄一は藩の財政に貢献するため藩の出資による**商法会所**を設立し頭取となり、**太政官札の活用策**を講じた。



静岡藩に貸付けられ 栄一が活用策を講じた明治政府の最初の紙幣

太政官札 _____年

江戸時代の貨幣単位「両」で発行された。

太政官札に対する栄一の見方と扱い

商法会所 頭取時代 1869年

- ・商法会所への静岡藩の出資の大部分が太政官札（明治政府の石高貸付）。
- ・人々は紙幣に不慣れで、政府への信頼は非常に薄い。
- ・今後、太政官札のレートが下落し、物価が高騰することは明らか。
- ・早く太政官札で物を購入するか、正金に変えておくことが必要。
- ・1869年春、紙幣を持って東京へ出て肥料を買い、大阪で米を仕入れた。（1887年の回想より）

民部省・大蔵省 仕官時代 1869年末～1873年 29歳～33歳

東京から呼出しがあり政府への仕官を求められたが、断ろうとした。しかし大隈重信に説得され、明治政府の租税・貨幣・銀行などの新しい制度の立ち上げや外国からの借金などの問題解決に關与した。栄一は、大隈重信・井上馨の下で新しい貨幣制度の立案に携わった。そして、1871年に新しい貨幣単位「円」を定めた「新貨条例」が公布された。



明治初期 大阪の造幣寮



拡大

1円金貨



紙幣統一の理想と財政赤字の現実に狭まれた栄一

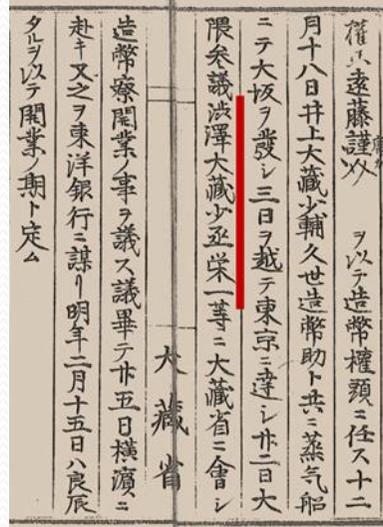
新紙幣（明治通宝札）_____年

栄一は新紙幣での紙幣統一に向け、発行の準備・流通政策に携わったが、実際には当初の目的を離れ、財政赤字の補てんに用いられた。

栄一が実現させた「圓」単位のお札の発行 三井組の説得、三井組の信用を利用 初の円単位の政府紙幣

大蔵省兌換証券 _____年

政府は、信用されずに額面割れしていた太政官札に替わる紙幣を発行しようとし、栄一はその準備に携わった。栄一は、信用のあった三井組の名義で、金貨と交換可能な兌換紙幣を発行しようとし、三井組の説得にあたった。



1870年造幣寮開業に向け 栄一が関与したことを示す資料



旧金銀貨回収のための「古金銀預証券」1872年 発行ルール作りなどに関わった栄一

栄一は、古金銀預証券の発行準備のため、大阪へ出張し、発行手続きなどの規則を定めた。証券の製造についても、栄一の尽力により、大阪で着手されたという。

渋沢栄一にまつわるお金のはなし

vol.2 明治政府仕官時代・第一国立銀行時代を中心に



#貨幣博物館うちミュージアム
#渋沢栄一 Vol.1もご覧ください

第一国立銀行時代 1873年 33歳～

栄一は1873年5月、井上馨とともに政府に辞表を提出し、その後再び官職に就くことはなかった。第一国立銀行設立の立役者として「総監役」に就任し、まもなく頭取となり、長年にわたりその経営を主導した。さらに、他の国立銀行の設立・運営を援助し、折善会（後の東京銀行集会所）の設立、手形交換所の開設などにより、民間銀行のネットワークの構築に尽力した。



三井組から第一国立銀行へ 東京海運橋三井組第一国立之銀行ハウス之図

三井組の建物として1871年夏に着工し、1872年に竣工した。しかし、国立銀行設立に向けた準備を進めていた栄一の働きかけにより、第一国立銀行に譲り渡されることになった。この錦絵にはタイトルとして、「三井組」「第一国立銀行」の両方が組み入れられている。



栄一が制度を設計、紙幣発行までの道のりを主導 栄一の名前が書かれた第一国立銀行紙幣

栄一は、明治初期に大蔵省で国立銀行制度の構築に尽力し、その過程で国立銀行紙幣の図柄の選定にも関与した。1873年、日本初の近代的な銀行となる第一国立銀行の設立を主導し、自らその経営を担うこととなった。

銀行ネットワークの構築

- ・栄一は、自らの大蔵省時代の国立銀行制度の起草の経験や銀行経営の経験をもとに、各地の国立銀行の設立と運営を援助した。
- ・栄一が率いる第一国立銀行は、①新設国立銀行の発起人や行員に対し、行内規定や銀行実務に関する指導を行い、②開業後は、コレレス取引などを通じて各国立銀行の業務を支援した。



第一国立銀行を中心とする銀行のネットワーク

（第一国立銀行本店ならびに栄一が設立を援助した銀行の本店所在地、1880年6月）

渋沢栄一と辰野金吾

栄一が設立した東京銀行集会所、辰野金吾設計の建築にて

- ・栄一は、①銀行間の親睦を図り、情報交換を行うとともに、②政府に対して共同で提言を行うため、同業者に呼びかけ1877年に折善会を設立、1880年同会を改組し東京銀行集会所（現：全国銀行協会）を設立した。
- ・その建築は留学から帰国直後の辰野金吾が担った（1885年竣工）。
- ・東京銀行集会所は、栄一の主導の下に、『銀行通信録』の刊行、東京手形交換所の創設、東京興信所の設立などをおこなった。



辰野金吾設計 東京銀行集会所
栄一が本拠とした兜町の隣町・日本橋坂本町に建てられた。

栄一が設立した東京手形交換所、辰野金吾設計日本銀行内へ

- ・1887年、栄一は、東京手形交換所を東京銀行集会所内に設立した。
- ・_____による日本銀行本店本館が1896年に竣工すると、東京手形交換所は同年同建物内に移転（借用）し、さらに1898年南分館が竣工するとその2階に移転した。



東京手形交換所
（場所を借り、移転）
日本銀行本店本館 1896年竣工
日本銀行南分館 1898年竣工

新一万円券 肖像の3Dホログラム

発行時期：2024年度上期を目途

肖像：渋沢栄一



左に傾けると 右に傾けると
お礼では世界初
裏面：東京駅 辰野金吾設計